

# 西要寺だより

第90号平成30年12月13日



## ●報恩講法要を勤めさせていただきました。

10月22日（月）23日（火）両日も午後2時より、報恩講法要をお勤めしました。まず勤行、その後、ご法話を聞かせていただきました。報恩講法要は、宗祖親鸞聖人のご苦勞をしのびつつ、私たちが阿弥陀如来のお救いをいただいていることをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。私たちにとって、もっとも大切なお法縁といえます。今年は龍谷大学名誉教授で本願寺派勸学の林智康和上に来ていただき、浄土真宗のご法義のかなめのお話や妙好人のご紹介をしていただきました。



なお、今年も22日に、沙羅(さら)（近隣の若坊守のコーラスの会）の方々が仏教讃歌や童謡「真っかな秋」を歌って下さいました。いつも歌詞を配りますので参詣者の皆さんも一緒に歌って下さいました。



## ●雅楽の演奏をしていただきました。

11月の定例法座は、兵庫教区の青年僧侶の会主催の聞法大会と兼ねて行いました。まず法話（2人）、その後、雅楽の演奏、最後に再び法話（1人）を聞かせていただきました。昨年に引き続き雅楽の演奏を聞きましたが、なかなか生演奏を聞く機会がないので、何度聞いても非常に感動しました。



演奏の前に、それぞれの楽器の説明をして下さいました。まず、龍笛（りゅうてき）は竹の管で作られ、表面に「歌口（うたぐち）」と7つの「指孔（ゆびあな）」を持つ横笛（よこぶえ）です。雅楽の楽器の中では広い2オクターブの音域をもち、低い音から高い音の間を縦横無尽に駆け抜けるその音色は「舞い立ち昇る龍の鳴き声」と例えられ、それが名前の由来となっています。

ちなみに龍笛はシルクロードを伝わって、ヨーロッパでフルートになったと言われます。

次に、箏篋（ひちりき）は漆を塗った竹の管で作られ、表側に 7 つ、裏側に 2 つの孔（あな）を持つ縦笛です。雅楽では、笙（しょう）、龍笛（りゅうてき）と箏篋をまとめて三管と呼び、笙は「天から差し込む光」、龍笛は「天と地の間を泳ぐ龍の声」、箏篋は「地に在る人の声」をそれぞれ表すといわれます。

最後に、笙（しょう）は、その形を翼を立てて休んでいる鳳凰に見立てられ、鳳笙（ほうしょう）とも呼ばれています。匏（ほう）と呼ばれる部分の上に 17 本の細い竹管を円形に配置し、竹管に空けられた指穴を押さえ、匏の横側に空けられた吹口より息を吸ったり吐いたりして、17 本のうち 15 本の竹管の下部に付けられた金属製の簧（した：リード）を振動させて音を出します。ハーモニカと異なり、吸っても吹いても同じ音が出せるので、他の吹奏楽器のような息継ぎが不要であり、同じ音をずっと鳴らし続けることも出来ます。押さえる穴の組み合わせを変えることで 11 種類の合竹（あいたけ）と呼ばれる和音を出すことができます。その音色は「天から差し込む光」を表すといわれます。構造上、呼気によって内部が結露しやすく、そのまま演奏し続けると簧に水滴が付いて音高が狂い、やがて音そのものが出なくなるため、火鉢やコンロなどで演奏前や間に楽器を暖めることが必要です。

雅楽の演奏の前後に 3 人の方のご法話もありました。三人三様でいいお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。出来れば、また青年僧侶の会の方に来ていただく予定です。今回来られなかった方も是非、三人三様のご法話や雅楽の演奏を聞きに来て下さい。

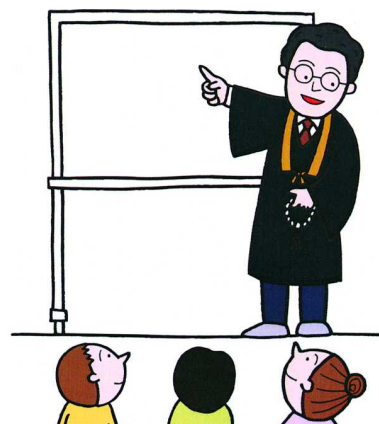


## ●ご報告と御礼

この度、平成 30 年 6 月に発生した地震により損傷した西要寺本堂の壁や硝子戸の修復、ならびに畳の表替え、クーラーの水漏れの修理を行いました。平成 30 年という年は、地震だけでなく、大きな台風がいくつか来たり、雨もよく降りました。秋の報恩講の折に、近隣の寺院の住職に伺うと、台風や地震によって大きな被害を受けたと言われるお寺もありました。西要寺におきましては、台風が来る前に、壁の修復が完了しておりましたので、それほどの被害を受けることはありませんでした。これは皆さまよりいただきましたご懇志によって修復が完了していたからであると思っております。誠に有り難うございました。

西要寺の行事は本堂や会館を使用して行っています。私たちは、出来るだ

け皆さまがお参りしやすいようにということを考えています。特に最近、正座をすると足が痛いとか、そもそも足が悪いので正座は出来ない、という方が多いです。会館は椅子席ですし、本堂においても椅子を並べてお参りしやすいようにしています。これからも西要寺の行事にご参加いただき、み教えを聞いて、ますます心豊かな人生を共に歩んで行きましょう。修復が完了した本堂の壁、やり替えた畳を見ていただきたく存じます。実は畳の業者と相談した結果、畳の一部は表替えではすまない状態でしたので、上敷きを新しくしたところもございます。引き続き、西要寺の行事に参加していただきたく存じます。



### ●最近、気づいたこと。

・月参りやご法事などでお参りする時に、私たち僧侶と同じように皆さんも合掌礼拝されていますか？

僧侶が家の人たちの代わりにお勤めしてくれて手を合わせているのではありません。僧侶にあわせて皆さまも一緒に合掌礼拝していただきたいです。いや、合掌礼拝するべきなのです。阿弥陀さまやご先祖のおかげで自分があるのですから、感謝をかたちで表さないといけません。また、出来れば合掌とともに「南無阿弥陀仏」と声に出していただきたく存じます。

・仏事にご先祖のため？

「ご先祖のために月参りとか法事をしている」とよく言われます。確かにそういうお気持ちも大事ですが、“浄土真宗の教えを聞いていく”という姿勢も大事です。仏教の多くの宗派があるなか、浄土真宗は教えを聞いていくということを特徴としてあげることができます。ご先祖を思うお気持ちをよくよく考えてみますと、ご先祖（先だって往かれた人）は、後に遺された人々（私たち）のことを心配なさっています。立場を逆に考えますと、自分が先立って往ったとしますと、後の遺っている子どもたちや孫のことを心配するでしょう。自分にとって子どもはいつまでたっても子どもであり、心配は尽きないものです。かわいい孫はなおさらです。先だって往かれた人が、私たちのことを心配されているというお気持ちは、“幸せになってくれよ”という願いがあります。“本当の幸せ”を説いて



いるのが仏教の教えです。仏教の教えを聞いていただき、“幸せ”になっていくことが、《ご先祖のため》ということになります。浄土真宗の教えを聞いていただきたく存じます。

### **最後に!!**

今号の「西要寺だより」は年末年始にお配りします。西要寺がホームページを作ったということ、若い人たちにも言って頂きたいと存じます。西要寺のホームページは、「西要寺 尼崎」で検索していただくと出てきますよ。西要寺というお寺は、実は和歌山にもありますので、「尼崎」と入れていただいた方がいいです。西要寺のホームページのトップページ(最初のページ)は西要寺の山門の写真です。もちろん、スマホ(携帯)でも見ていただくことは出来ますよ。ホームページを見ていただいている方は徐々に増えてきています。大変、嬉しいことです。一方、インスタグラムの方は停滞していますが、いずれインスタグラムの方も一新していくことも考えています。その時はお知らせいたします。だんだんと寒くなってきました。くれぐれも風邪にお気をつけください。(副)

### **◎今後の西要寺行事予定◎**

#### **【定例法座】**

12月22日(土) 午後2時より 4時頃(予定)まで

講師：西要寺副住職

場所：西要寺会館(椅子席)

●法座終了後、ヨガ教室を行います。

#### **【新年会】**

1月12日(土) 正午より 場所：西要寺本堂

●今回は龍谷大学落語研究会の方に、落語をやっていただきます。

ご参加希望の方はお申し込み下さい。昼食、飲み物付。

(一道会会員：2500円 非会員：3000円)

#### **【定例法座】**

2月22日(金) 午後2時より

講師：花岡尚樹先生(あそかビハーラ病院常駐僧侶)

場所：西要寺会館(椅子席)

●法座終了後、ヨガ教室を行います(予定)